



JFE

# JFEスレートカバー780

## 施工マニュアル



JFE鋼板株式会社

# 目 次

## 1 仕 様

1. 屋根形状
2. 標準仕様
3. 標準部材

## 2 施工準備

1. 施工の流れ
2. 工具類の準備

## 3 施工要領

1. 施工前の確認項目
2. 安全対策
3. 作業手順

※この施工マニュアルに記載された基本的仕様・内容・工法等と異なる施工を、  
弊社に相談なく行われた場合、弊社では責任を負いかねますのでご了承下さい。

# 事故防止のための安全管理

『JFEスレートカバー780』は、劣化した既存スレート屋根を新設の屋根で覆う工法です。一般的に高所で作業し、各種揚重機や電動工具などを用いて施工します。したがって、墜落、落下物、感電などの大きな災害につながるおそれがあります。関連の法令を遵守することは勿論、下記の様な点に留意し、事故防止に努めるようお願いします。

この製品は屋根材です。屋根以外には使用しないで下さい。

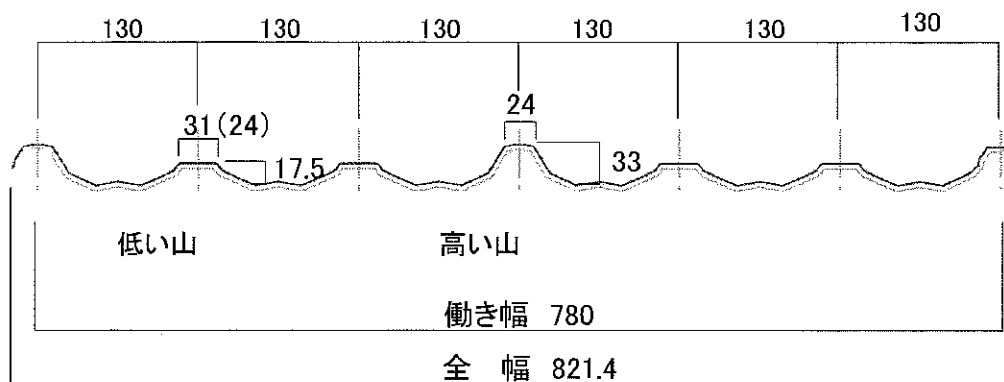
また、本工法の間接固定工法は既存スレート屋根に穴をあけず、アスベストを含んだ粉塵を飛散させない、人や環境にやさしい工法です。

しかし、施工中の移動、ビス締めによる振動等により埃が屋内に落ちることがあります。屋内の塵埃に対する使用条件により、適切な屋内養生をお願いします。

- スレートカバーを行うことにより、既存の屋根に0.5mmで5kg/m<sup>2</sup>、0.6mmで6kg/m<sup>2</sup>の荷重が増加します。  
必ず既存の屋根荷重の安全性をご確認ください。
- 既存スレート屋根の踏抜き墜落防止のため、下記の安全対策を必ず行ってください。
  - i) 安全捨てネット貼り (捨てネット同士は必ず緊結して下さい)
  - ii) 作業用足場板敷き (幅300mm以上 安衛則 524条)
  - iii) 明り採り部墜落災害防止措置を講じ作業して下さい。(表示、囲い、養生等)
- 既存屋根の上に資材を仮置きする場合、必ず合掌・梁がある場所にしてください。  
また、施工しやすいように分散させ、軒先側に荷ずれ防止の処置をお願いいたします。
- 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。  
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
- 落下物のおそれのある部分での上下作業は避けてください。
- 作業する際の服装は、支障のない身軽な作業服にし、ヘルメット・安全帯等の保護具を着用してください。
- 製品の取り扱いには、ゴム付き手袋や保護メガネなど作業に応じて、適切な保護具を着用してください。
- 電動工具を使用する際は、取り扱い説明書に従って正しくご使用ください。  
また、始業前点検を実施してください。

# 1 仕様

## 1. 屋根形状（間接工法、直接工法共通）



(単位：mm)

※ 地域により、多少形状に違いがございますので、ご了承下さい。

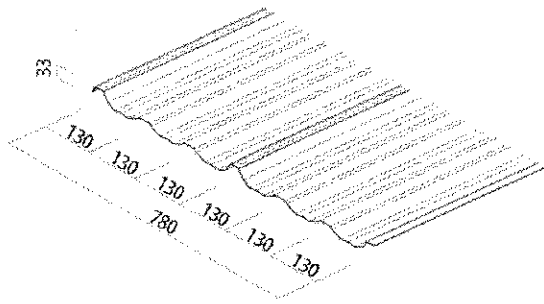
( )内数値は、西日本地区。

## 2. 標準仕様

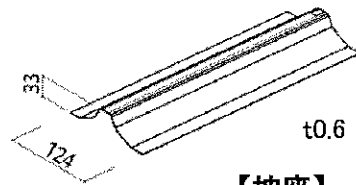
屋根本体	カラーガルバリウム鋼板（標準品）
裏貼材	ポリエチレンフォーム4mm（オプション）
板厚	0.5mm、0.6mm
働き幅	780mm
施工単重	0.5mm - 4.9kg/m <sup>2</sup> 0.6mm - 5.8kg/m <sup>2</sup>
補強材	風圧力に応じて使用します
勾配	3/10以上（標準）
防水テープ	別途ご相談ください

3. 標準部材

【屋根本体】



【補強材】屋根材用

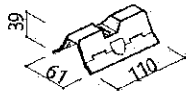


【枕座】

\* 直接固定工法用

【固定金具(大)】

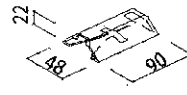
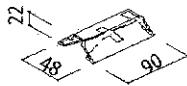
\* 高い山固定用  
ナット締式



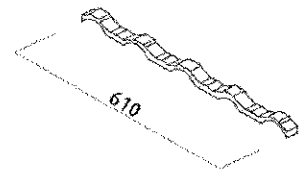
専用ナット付(1/4インチ又は6φミリ)

【固定金具(小)】

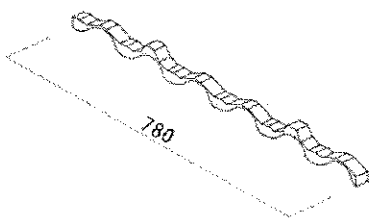
\* 低い山・ケラバ固定用 \* 平ケラバ用(下部が平坦)  
\* 壁スレート小波固定用



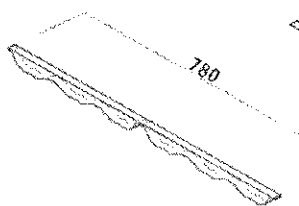
【バックアップ(重ね部)】



【軒先ケカル面戸】



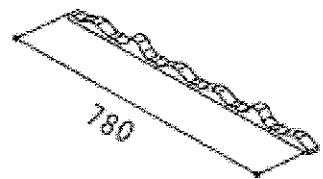
【水上ケカル面戸】



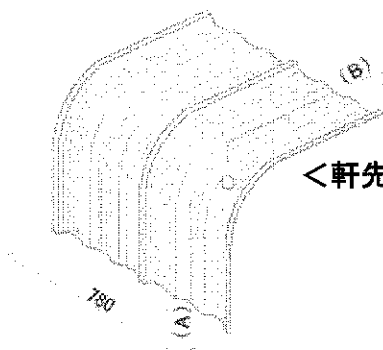
【水上鋼製エプロン面戸】



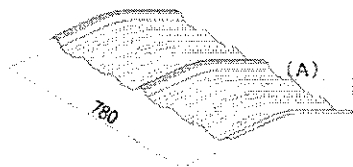
【谷ケカル面戸】



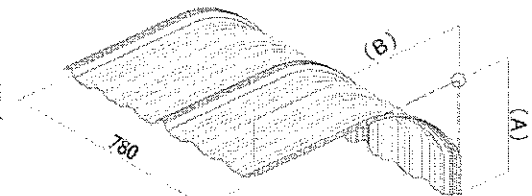
【ラジアル】



<軒先部>



<棟部>



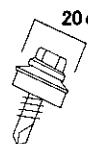
<水上部>

【本体用ドリルねじ】

絞り座・パッキン付

固定金具(大) 6φ×Q20

固定金具(小) 6φ×Q19



ステンス仕様推奨

MBテクス(JPF同等品)

【薄板用ドリルねじ】

補強材中間固定用、2山フレーム

座金・パッキン付

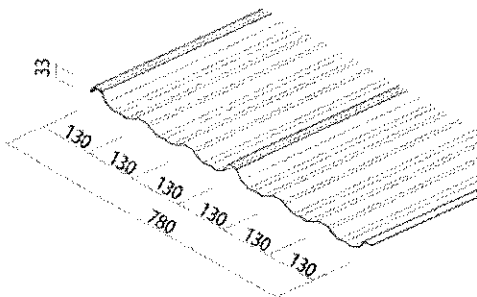
4.5φ×Q13 (薄板止め用)



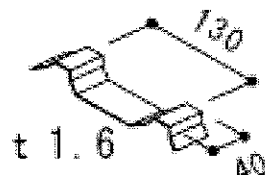
ステンス仕様推奨

MBテクス(JPF同等品)

【明かり採り】



【明かり採り2山フレーム】



【明かり採り用タイトフレーム】



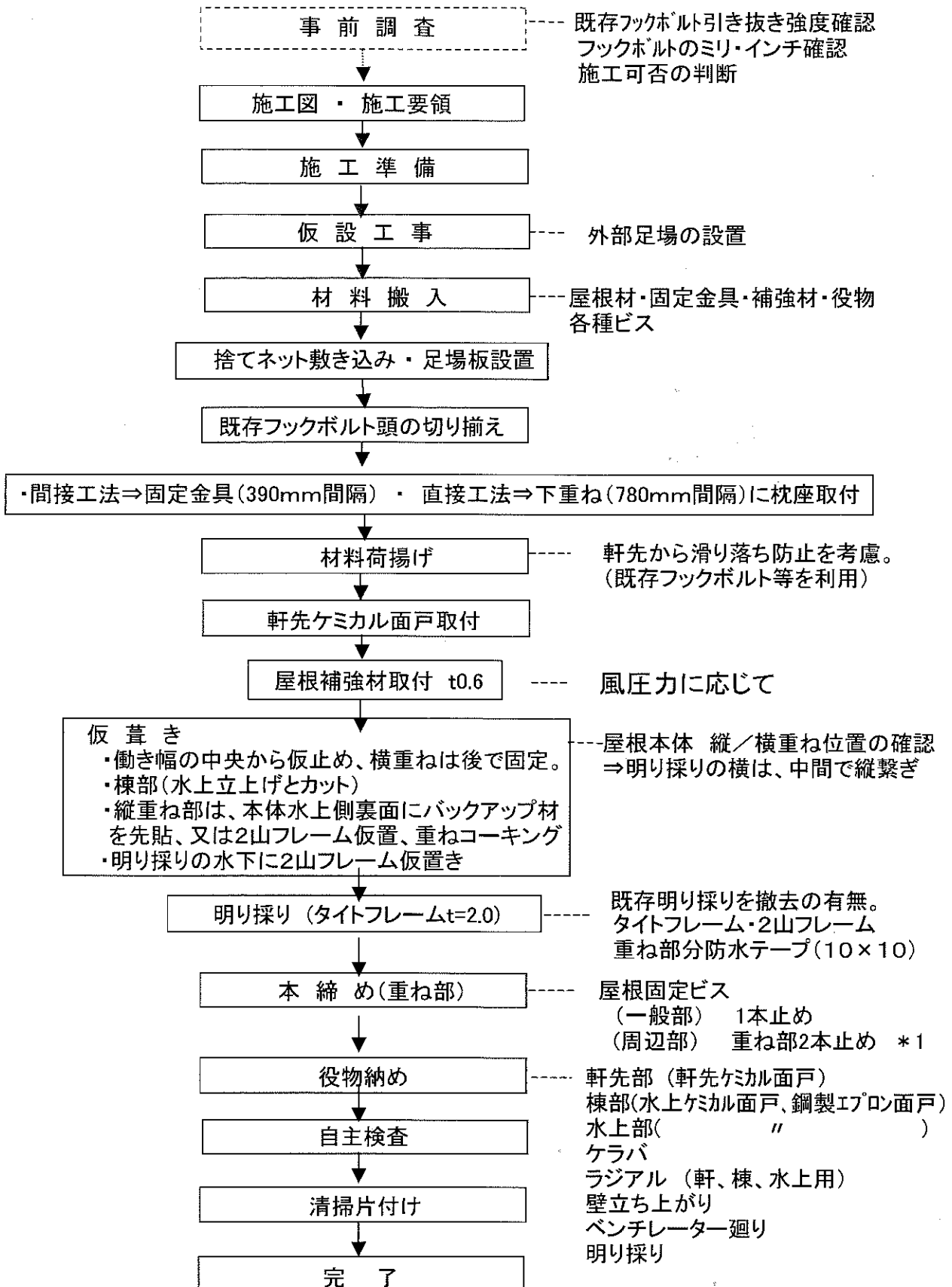
( ) 内は直接工法

## 2 施工準備

### 1. 施工の流れ

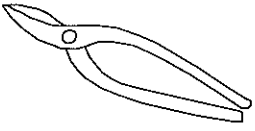
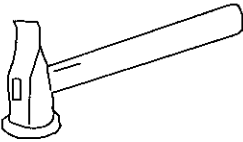

標準的な施工の流れは、以下の通りです。

#### 【チェック項目】



\*1 風圧力が大きくなる周辺部(軒先、棟、ケラバ)は、重ね部を屋根固定用ビス2本で止めて下さい。

## 2. 工具類の準備

<ul style="list-style-type: none"> <li>棟立ち上げ機</li> <li>軒立ち下げ機</li> </ul> 	<p>電動スクレイドライバー 及びインパクトドライバー</p> 	<p>エースカッター</p> 
<p>金切り鋏み</p> 	<p>つかみ鋏み</p> 	<p>リベッター</p> 
<p>クリッパー</p> 	<p>巻尺</p> 	<p>パール</p> 
<p>金槌</p> 	<p>コーキングガン コーキング材</p> 	<p>電気コード</p> 
<p>ブロアー及び掃除機</p> 	<p>隅出しセット、ペーパーカッター</p> <p>その他</p> <p>事前に現場状況に応じて工具の準備を行って下さい。</p>	

### 3 施工要領

#### 1. 施工前の確認項目

##### 割付とビス止め・葺き方の基本的な考え方

間接工法と直接(直打)工法があります。間接工法は固定金具、直接工法は枕座を必要とします。それ以外の仕様は、屋根周辺部のビス固定方法一本止めを除き同じです。

##### 1) 間接工法

- ・ 割付は780mm、固定は横方向390mm、流れ方向は母屋間隔で、固定金具にビス6φ×20ℓを使用し固定します。ケラバ幅は現地合わせになります。
- ・ 軒、ケラバ、棟部の風圧の強い屋根周辺部分の横重ね部は、SUS6φ×20ℓ、座金20φパッキン付(JPS同等品)2本で固定します。SUSは推奨品です。現地の元請業者とご相談下さい。

##### 2) 屋根材の縦／横重ね位置を、既存スレートの重ね位置とズラして割付けて下さい。

縦重ねの水側裏面には、バックアップ材を貼付、上面はコーキング一列を標準とします。

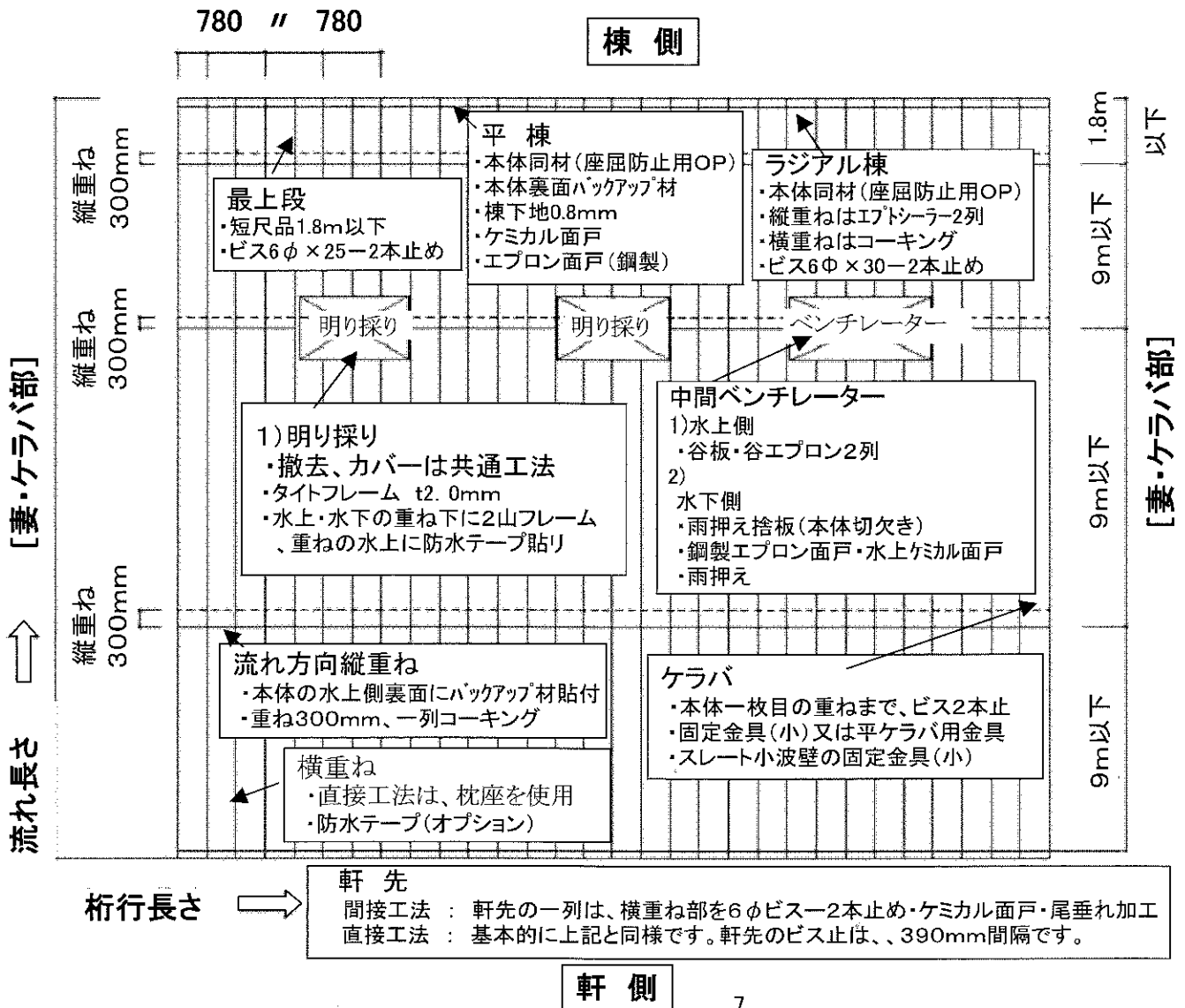
##### 3) ラジアル棟部を納める場合、両側の屋根面の通り芯がズレていることが多いので、短尺品(1.8m以下)を配置し、割付ズレを吸収して下さい。

##### 4) 屋根材の成形長さは標準で9m以下ですが、各取り扱い店でご確認して下さい。

##### 5) 直接(直打)工法

- ・ 上記の固定金具以外は、割付、ビス間隔、葺き方等の仕様は同じです。
- ・ 但し、屋根周辺部の軒先、ケラバ、棟のビスは6φ×90ℓ以上(下地厚みによる)、一本止めです。

#### 割付・各部位作業確認と使用部材リスト

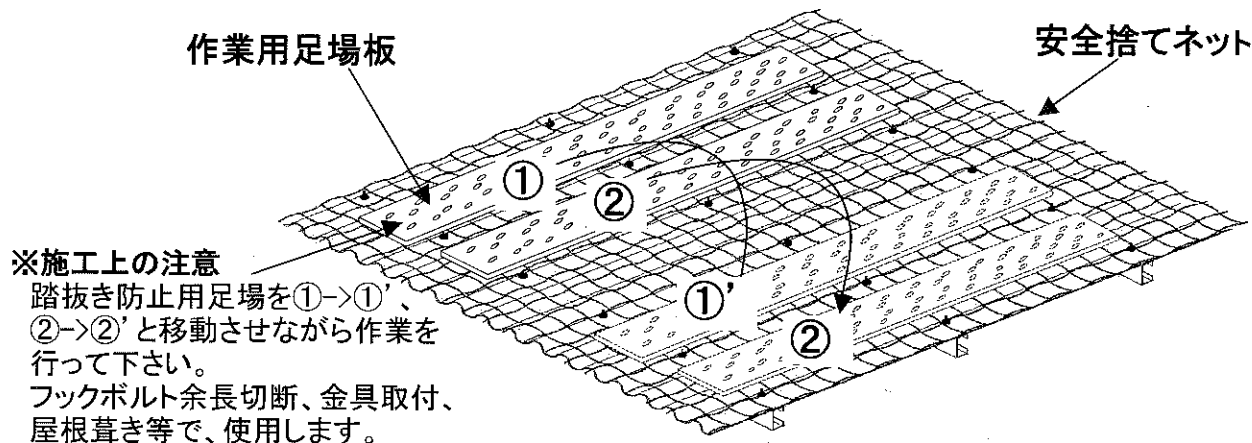




## 2. 安全対策

スレート屋根の踏み抜き墜落災害防止のため、下記の安全対策を必ず行って下さい。  
また、施工前に元請け業者の承認を得て下さい。

- i) 安全捨てネット貼り (捨てネット同士は必ず緊結して下さい)
- ii) 作業用足場板敷き (幅300mm以上 安衛則 524条) ①と②を交互に移動させる。
- iii) 明り採り部墜落災害防止措置を講じ作業して下さい。(表示、囲い、他)



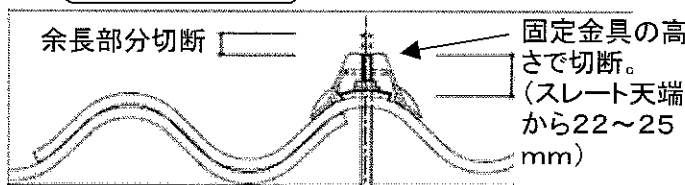
## 3. 作業手順

### 1) 間接工法

#### ① 既存フックボルトの余長切断

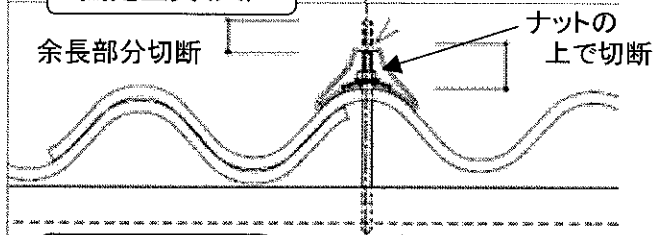
##### 固定金具(大)

ナット締め式(6ミリ、1/4インチの強・弱有り)



- 1) 既存フックボルトの切断高さは、固定金具を仮置きし、その天端より低くなるようにクリッパーで切断して下さい。(突出すると、本体に当り跡が出ます)

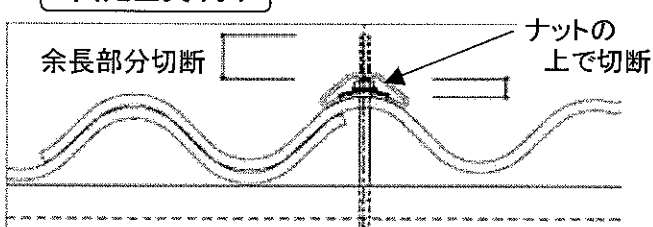
##### 固定金具(大)



##### 差し込み式(オプション)

- 1) 既存フックボルトの突き出しが少ない時に使用します。
- 2) 既存フックボルトの切断位置は、ナットの上で切断して下さい。

##### 固定金具(小)

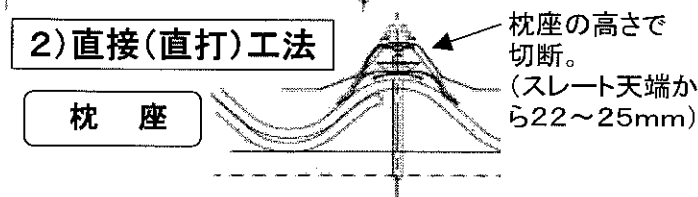


##### 差し込み式 : 固定金具(小)

- 1) フックボルトの間隔が260mmの時、低山に固定する時に使用します。
- 2) 既存フックボルトの切断位置は、ナットの上で切断して下さい。

### 2) 直接(直打)工法

##### 枕座

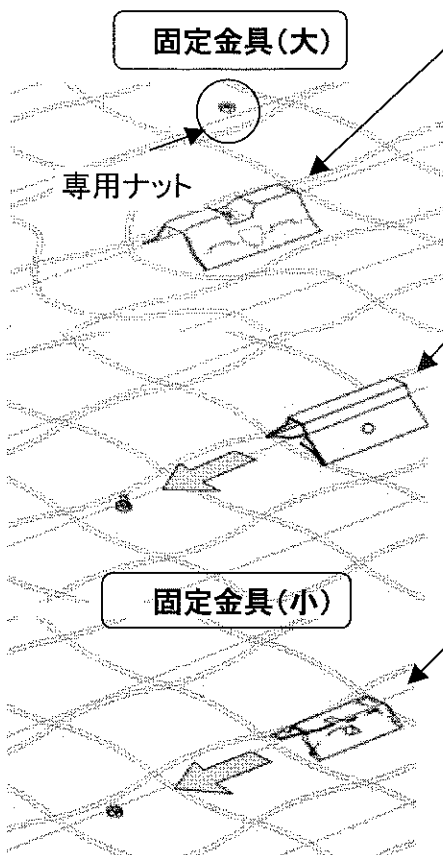


##### 枕座

- 1) 既存フックボルトの切断高さは、固定金具を仮置きし、その天端より低くなるようにクリッパーで切断して下さい。(突出すると、本体に当り跡が出ます)

## ② 固定金具(間接工法)と枕座(直接工法)の取付

### 1) 間接工法



#### ナット固定式

- 1) 既存フックボルトの間隔は390mmで、屋根本体の高い山を固定する場合に使用します。
- 2) 既存フックボルトに、固定金具の楕円穴を落とし込み、軒と棟の通り芯を合わせながら専用ナットで留め付けます。

#### 差し込み式 (オプション)

- 1) 既存フックボルトのネジ山の腐食が激しく、上記ナット固定式が使用できない場合に使用します。
- 2) 固定金具を座金の下へ切欠き側から叩き、差し込みます。スレート割れ防止のため、ナットを少し緩めて使用して下さい。

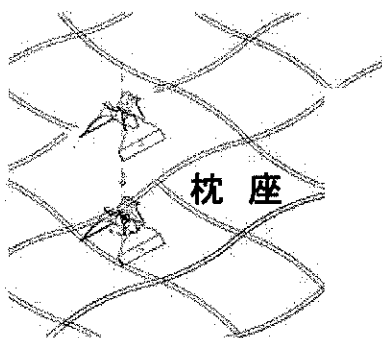
#### 差し込み式

- 1) ケラバやその他の場所で390mm以外の間隔(例260mm)で、低い山を固定する場合に使用します。
- 2) 既存フックボルトの座金の下へ切欠き側から差し込みます。スレート割れ防止のため、ナットを少し緩めて使用して下さい。

#### (差し込み式での注意)

差込む際に既存の防水パッキンが削れ、屋根葺き前に雨水浸入の危険があります。固定金具水上側にコーキング等を実施して下さい。また、劣化したスレートが割れることがありますので、ご注意下さい。

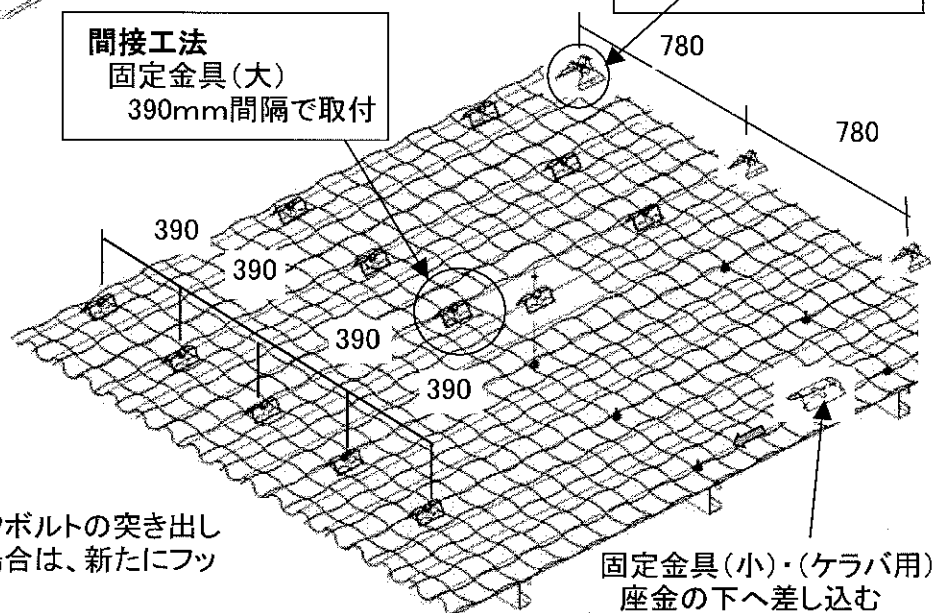
### 2) 直接工法



- 1) 働き幅(780mm)の、重ね部分のフックボルトに、枕座の穴に落とし込みます。

間接工法  
固定金具(大)  
390mm間隔で取付

直接工法  
枕座  
780mm間隔で取付



#### (施工時の注意)

\* 間接工法の時、既存フックボルトの突き出しが短い、また間隔が違う場合は、新たにフックボルトを入れて下さい。

固定金具(小)・(ケラバ用)  
座金の下へ差し込む